





わがまちはみんなの元気から

千鳥南町会長



大芦 重雄
新年を迎え、町会として鶴の地区町会連合会の皆様と、元気で幸せな年でありませうと祈り申し上げます。

私達の町会は、多くの課題が残っていますが、私は「課題があること」自体が重要なのではないかと考えています。地域の方々と相談し、力を合わせて取り組み、無理のない運営を進めていくことが大事であると思っています。会館では、階段の昇り降りにご苦労をかけていますが、エレベーターの取付けは大きな課題です。長い時間でも、快適な利用が可能になるよう、座椅子は八十脚を用意しました。会館が多くの方に利用される喜びと笑顔が町に溢れているのは、何よりです。これから町会の皆さんと力を合わせ、笑顔溢れる住みよい安全な町づくりを進めていく事が、皆様の元気につながると思っています。

風の色輝く未来を



古谷 資友
新年明けましておめでとうございます。国際化が急速に進む現代、地域の人々が、明るく元気に生きて行くには、何が必要なのでしょう。それが、健康、経済、教育、環境の四つの「K」が求められるとわたしは考えます。「健康な身体」と「心の保全」が、その実践のための前提、第一条件となります。経済の観点からは、生活していく上での手段として、「お金(カネ)」。その「使い方の如何」こそが問題となるでしょう。教育は、心の問題。「個人の価値観の形成」と「他者とのふれあい」を大切にすることです。環境は、自然とのふれあい。地域の風の色、水の流れる季節の変化を感じる生き方が大事です。明るい未来に向けて、今年も元気に生きて行きましょう。

「健康な身体」と「心の保全」が、その実践のための前提、第一条件となります。経済の観点からは、生活していく上での手段として、「お金(カネ)」。その「使い方の如何」こそが問題となるでしょう。教育は、心の問題。「個人の価値観の形成」と「他者とのふれあい」を大切にすることです。環境は、自然とのふれあい。地域の風の色、水の流れる季節の変化を感じる生き方が大事です。明るい未来に向けて、今年も元気に生きて行きましょう。

生きがい



松本 浩三
人間として、生きがいをどこに求めるか、人それぞれ異なる所です。自分だけが無事平穏に、そしてできたなら楽しく暮らす、それで結構だという考えがあります。それはそれで悪い事ではありません。しかしこれでは一生を省みただけで生きてきたと、言うだけのことになって、年月が過ぎればなにか、物足りない感じがするかも知れません。人が喜んでくれた、自分も気持ちよかった、何か好きな事をした。そういう気持ちで人生を過ごす事が出来たらどうでしょう。挨拶を中心に置きお互いに皆で助け合い、安心で、安全な街づくりを進めるように生きたら素晴らしい生きがいを感じる事ができると信じます。

しかしこれでは一生を省みただけで生きてきたと、言うだけのことになって、年月が過ぎればなにか、物足りない感じがするかも知れません。人が喜んでくれた、自分も気持ちよかった、何か好きな事をした。そういう気持ちで人生を過ごす事が出来たらどうでしょう。挨拶を中心に置きお互いに皆で助け合い、安心で、安全な街づくりを進めるように生きたら素晴らしい生きがいを感じる事ができると信じます。

千鳥北町会長



米本 篤生
故川上会長をお受けして今年で五年目を迎えます。後継者不足の戸惑いながら、理事、役員の方々のご協力を頂き数々の行事を無事行うことができて、まず有難く感謝を申し上げます。そして昨年は、北町会員永年の願望でした町会会館の取得が出来、大田区行政を始め出張所の方々の過分なご尽力に対し重ねて御礼申し上げます。さて千鳥北町会は、所帯数が少ない地区ですが、だからこそ町内会をより大切に心の通い合える町、共に支えあえる町にしたいと思っております。かつて私の世代は「昭和」の時代と呼ばれていました。戦争の時代を生きて、疎開、空襲、そして敗戦を知り、焼跡からの復興、高度成長から今日の景気後退まで「見るべきものは見つ」の心境です。昭和の私の経験から善し悪しを熟慮しながら、信頼し合える楽しい元気な町を皆で目指したいと思っています。

後継者不足の戸惑いながら、理事、役員の方々のご協力を頂き数々の行事を無事行うことができて、まず有難く感謝を申し上げます。そして昨年は、北町会員永年の願望でした町会会館の取得が出来、大田区行政を始め出張所の方々の過分なご尽力に対し重ねて御礼申し上げます。さて千鳥北町会は、所帯数が少ない地区ですが、だからこそ町内会をより大切に心の通い合える町、共に支えあえる町にしたいと思っております。かつて私の世代は「昭和」の時代と呼ばれていました。戦争の時代を生きて、疎開、空襲、そして敗戦を知り、焼跡からの復興、高度成長から今日の景気後退まで「見るべきものは見つ」の心境です。昭和の私の経験から善し悪しを熟慮しながら、信頼し合える楽しい元気な町を皆で目指したいと思っています。

わがまちはみんなの元気から

鶴の木三丁目町会長



本橋 政昭
昨年、東京都助成事業として大きく前進した「オアシス運動」が、家庭、学校、そして地域全体に広がりました。今年も豊かな優しい心が溢れる町にしたいものです。

私達の町会は、一月十一日のどんと焼きから平成二十一年の行事がスタートします。役員の方々の指導で、羽根つきの遊びもありません。「どんと焼き」の火で焼くお餅を食べると風邪をひかないんだよと子ども達に教える「年配の方」。季節の行事をできる限り多く取り上げ、自然と「オアシス運動」の心も伝えていきたいと思えます。町の様子も外の景観も少しずつ変化中、皆様のご協力を頂き、子ども達の夢想像力を育むためにも楽しみます。本年も皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

散歩してみませんか

大田区内の都立高校周辺巡り その七 六郷工科高等学校

六郷工科高等学校
平成十六年開校の単位制工業高校で、全国で始めての事業として産業界と学校とのパートナーシップにより、協同して人材育成を行う、新しい職業教育システムを採っている。一年次からいくつかの職業を体験し、二年次以降に企業と契約し、長期就業訓練を行い、実践的な知識・技術を習得する。協力企業は、二〇〇社に及びようである。また、資格取得や、大学進学を目指している。

宝幢院

平安末期の創建と伝えられる。寺に伝わる梵鐘は、延享九年(一六八二)に多摩川の河原で鑄造したといわれる。寺内には、寛永二十年(一六四三)の銘の入った区内最古の水船(手水石)がある。玉川八十八番札所、四国八十八霊場をたどる石碑もある。

安養寺
古川薬師とも呼ばれ行基が近辺の銀杏の霊木で、薬師・釈迦・阿彌陀の像をつくり、これを安置する御堂を建てたのがはじまりといわれる。開創は和銅三年(七一〇)である。門前には、区画整理のため雑色より移された、東海道から古川薬師への分岐点に建てられた。江戸時代の道標では、区内に残る二基のうちの一基である。川の河原で行われ、古くから伝わる伝統民芸である。区役所三階のホールには、大とんぼが展示してある。



「六郷工科高等学校所在地」 大田区東六郷二一八一二 京急雑色駅より徒歩約三分 鶴の木東町会 木村 希代子 南久が原一丁目町会 青木 幸子